

令和7年度 社会福祉法人岐協福祉会 事業報告

【概 要】

令和7年度は、下記の3点に重点をおき、安定した経営環境を構築するとともに、地域に信頼される総合福祉施設をめざし各種事業を実施いたしました。

第1に、それぞれの介護サービス事業において、入所率・利用率を高め、安定した経営を目指すとともに、職員体制の充実、経費の削減に努めてきました。

第2に、研修等を通じ、人材の育成と離職防止に努め、安心して働くことができる職場環境づくりを進めてきました。

第3に、施設内の行事や取り組みをSNSにより発信していくなど、施設の広報を行うことにより利用者の獲得に努めました。

こうした事業を中心に各種事業を積極的に取り組むことにより、岐協福祉会の理念に基づき、柔軟に対応できる自立した経営と質の高いサービスが提供できるよう努めました。

【1】 法人本部事業

1 理事会等の開催

社会福祉法に準拠し、経営組織のガバナンス強化を図るとともに、介護保険事業の経営の安定化をめざし、次のとおり、理事会・監事会・評議員会等を開催しました。

(1)理事会

第1回 令和7年6月4日

- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について
- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告について
- ・次期役員候補者の推薦について ほか

第2回 令和7年6月24日

- ・理事長の選定について

第3回 令和7年11月5日

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和7年度社会福祉法人岐協福祉会資金収支補正予算について

第4回 令和8年3月30日

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和8年度社会福祉法人岐協福祉会事業計画について
- ・令和8年度社会福祉法人岐協福祉会資金収支予算について ほか

(2)監事会

定期監査の執行 令和7年5月27日

(3)評議員会

定時評議員会 令和7年6月24日

- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について

- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告について
- ・次期理事及び監事の選任について

(4) 評議員選任・解任委員会

第1回 令和7年6月10日

- ・次期評議員の選任について

2 会議・委員会等の開催

事業の適正化と事業所間の連携強化のため、次の会議・委員会を開催しました。

(1) 事業責任者会議 毎月開催

理事長出席のもと事業実績、経営状況を確認、懸案事項の検討のため協議を行いました。

(2) 広報委員会

広報誌「ほほえみ」を作成・編集し、年2回を発行しました。

(3) 安全衛生委員会 毎月開催

事故報告、ヒヤリハットの分析により、労働災害の事故、交通事故予防の検討を行いました。

3 介護保険事業等の経営

それぞれのサービス事業において、利用者の心身の状況に応じ、適正な個別サービスの提供に努め、さらなる生活の質の向上を図り「愛情と理解」をもって満足される質の高いサービスの提供に努めました。

介護職員等への処遇改善として、「介護分野の職員の賃上げ、職場環境改善支援補助金」、「介護職員等処遇改善加算」を活用し、オンコール手当の創設、処遇改善手当の引上げなど賃金の向上に努めました。

4 地域福祉の機能強化、交流事業の推進

さまざまな事業を通じて地域との信頼関係深め、地域福祉の中核としての役割をより一層担っていきます。

(1) 地域交流室の地域住民への解放

(2) 自治会等の行事、事業への参加や協力

・芥見東まちづくり協議会と共催 ほたる祭り 令和7年6月7日

・芥見東まちづくり協議会主催 夏まつりへの参加・協力 令和7年8月2日

5 職員の健康管理

職員の健康の保持増進を図るとともに疾病の早期発見及びメンタルヘルスの向上に努めるため、定期健康診断 ストレスチェック等を行いました。

6 職員の育成、研修への取り組み

人事考課シートの見直しを図るとともに、施設長との定期的な面談、職員研修を毎月実施することで、職員の資質向上、公平な処遇を図りました。また、風通しの良い職場環境を作るため、7月には職員満足度アンケートを実施しました。

(1) 苑内研修

実施日	研修テーマ	参加者				
		大洞	第2	日野	包括	計
4/1、2	新人職員研修	3名	0名	0名	1名	4名
4/30	法人理念、令和7年度 事業所の目標	25名	3名	6名	8名	42名
5/28	食中毒・感染症予防とシュミレーション	18名	3名	6名	1名	28名
6/25	BCP研修・災害シュミレーション	17名	4名	4名	8名	33名
10/29	感染症予防・感染シュミレーション	21名	1名	7名	7名	36名
11/26	BCP研修、災害シュミレーション	18名	3名	4名	6名	31名
12/12	法令遵守・倫理意識向上(外部講師)	18名	6名	5名	6名	35名
3/25	看取り実践報告	10名	1名	9名	5名	25名

(2) フォローアップ研修ネット配信サービスの動画視聴(15分から20分)による研修

対象事業所の全職員が受講し理解を深めました。受講後には確認テスト実施し研修報告書として提出しました。

実施月	研修テーマ
5月	介護現場の接遇とは
	リーダーの役割(主任級以上が対象)
7月	身体拘束を行ってはいけない理由
	不適切ケアと虐待
8月	倫理・法令遵守の理解
	緊急時対応
9月	看取りケアの基本
10月	プライバシー保護・個人情報取り扱いの理解
12月	虐待防止・介護現場の身近な事例から考える視聴
1月	緊急やむを得ない身体拘束に関する知識
2月	リスクマネジメントとは
	褥瘡発生のメカニズム
3月	生産性の向上

【2】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑事業(定員100人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概要】

開かれた施設を目指して面会の拡大、ボランティアの受け入れ、外出支援などの余暇活動の充実を図りました。また、地域との共同開催となる「ほたる祭り」を6年ぶりに開催しました。

岐阜市より令和7年5月2日付けにて、令和5年10月20日に発生した事案が身体的虐待に

該当するとの判断を受け、虐待防止のための取り組みを作成し、改善報告書を岐阜市に提出し、再発防止の取り組みに注力しました。

令和7年10月23日には岐阜市実地指導があり、加算の算定誤りの指摘を受けましたので、過誤調整及び返金対応を行いました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
新規入所者数	54	37	20	44	45
退所者数	46	34	29	41	34
平均要介護度	3.54	3.88	3.85	3.9	4.0
利用率(%)	79.8	82.4	75.6	76.4	84.8

1 重点目標に対する取り組み

(1) 明るく、丁寧で、安心できるケアの実践に努め、利用者が安心して生活が送れる場所を構築します。

- ・職員が自ら考えた目標「明るく、丁寧で、安心できるケアの実践」を実現すべく業務改善に努め生産性の向上および効率化を図りました。生まれたゆとりの時間は、利用者向き合う時間や余暇活動の時間に活用しました。

(2) 円滑な入退所管理に努め、空床期間を減少し利用率 85%を達成します。

- ・円滑な入所管理に努め 45 名の新規入所者を迎えました。また退所は 34 名ありました。前年度に比べ 11 名の増加に繋げることができました。
- ・感染症予防、健康管理に努めましたが、入院は 1 日平均 8.7 名ありました。9 月に発生した新型コロナクラスターでは 50 名が感染し 8 名が入院となりました。その影響もあり、目標利用率 85%に一步及びませんでした。

(3) 研修(特に喀痰吸引研修・虐待防止研修)に注力し、知識および技術を備えた職員を育成します。

- ・喀痰吸引研修へは、職員体制の充実が図れなかったため派遣を見合わせました。
- ・令和 5 年度に発生した重大事案に対し、令和 7 年 5 月に岐阜市より改善指示を受けました。再発防止への取り組みの柱として「虐待防止のための研修」を 7 月と 12 月に行い、さらに 9 月 10 月には全職員が参加する虐待防止勉強会を実施しました。

2 施設サービス計画の実施状況

- ・利用者及び家族の生活に対する意向の実現のため、ケアマネジャーの原案をもとに QOL(生活の質)の向上を目指した多職種によるカンファレンスを行い、ケアプランを作成、実施しました。

3 介護サービスの実施状況

- ・個別のケアプランに基づき、利用者及び家族の意向に沿ったケアに努めました。
また、外出行事を毎月実施し、フロア職員によるレクリエーションの充実を図りました。

4 機能訓練の実施状況

- ・R6.10からは、専従の機能訓練指導員の退職もあり、個別機能訓練加算の算定は行えませんでした。R7.4から、新たに専従の機能訓練指導員は配置されたことにより、個別機能訓練加算の算定を行っています。

5 食事サービスの実施状況

- ・入所者の栄養状態等を把握し、管理栄養士が中心となり多職種が連携して栄養ケア計画を作成しました。
- ・適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食（ぶりの解体ショー）及びバイキング食（寿司）を2回（11月・2月）提供しました。

6 看護サービスの実施状況

- ・9月は新型コロナクラスター対応（利用者50名が感染）、2月はインフルエンザ（利用者1名が感染）と新型コロナ（利用者4名が感染）それぞれの感染対応を行いました
- ・感染予防対策として、毎朝の検温及び施設内の消毒・換気を行いました。また、感染拡大期においては、情報共有およびアルコール消毒の徹底（令和7年9月より、常時、全職員がアルコールボトルを携帯）により、クラスターの早期収束に努めました。

実施日	内容	人数	備考
7/9	健康診断	64名	胸部X線など
11/25	インフルエンザ予防接種	77名	
11/25	新型コロナウイルス予防接種	46名	

7 看取り介護の実施について

看取り介護の実施はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議等

事業運営体制の充実と職員間の連携、更には介護の質向上を目的として、会議及び委員会活動を実施しました。

会議名	開催回数	備考
特養会議	12回	毎月
介護職員会議	12回	毎月 各フロアにて
給食委員会	12回	毎月
介護力向上委員会	12回	毎月
入所判定委員会	12回	毎月
事故防止委員会	4回	4・7・10・1月

感染症防止委員会	4 回	5・8・11・2 月
虐待防止・身体拘束委員会	4 回	6・9・12・3 月
入所者懇談会	2 回	4 月、1 月
安全対策部門	2 回	6 月、3 月
家族会議	1 回	2 月

(2) 研修

介護職員等の資質の向上を図るため、苑内研修に参加し、フォローアップ研修の動画視聴および確認テストを毎月実施し資質向上に取り組みました。

(3) 外部研修

介護技術研修をはじめ、岐阜県老協岐阜支部が主催する部会研修会（介護職員、生活相談員、看護師、栄養士）、生産性向上研修など、必要な研修に計12名が参加しました。

(4) 勉強会

虐待防止への改善計画に基づき「高齢者虐待防止」の勉強会を、9月から11月にかけて毎週開催し、全職員が参加しました。

9 介護相談員の受け入れ

令和7年度の受け入れはありませんでした。

10 岐阜市高齢者等緊急一時保護事業について

令和7年度は受入の依頼はありませんでしたが、緊急やむを得ない措置入所により、1名受け入れました。

11 その他

(1) 非常災害対策

利用者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また訓練後の防災委員会ではBCP(事業継続計画)の見直しを行いました。

実施日	内容	参加者数
6/25	地震および火災を想定した訓練	37 名
10/23	土砂災害等を想定した訓練	45 名

(2) ボランティア等の活動状況(敬称略)

団体・個人名	活動内容	活動日など
森 佳子	音楽療法	毎月 1 回開催
臼井美枝子(協美会)	生け花の講師	4/10、7/10、11/13、1/10
西本願寺ビハーク	彼岸法要の読経	9/19、3/18
あいばち	パチンコ体験	7/23
清流会	清掃(車いす、苑庭)	12/4
アップストーンズ	フルート・二胡の演奏	9/29(敬老会)

ハーラウ ワレア ホアヘレ	フラダンスショー	2/26(家族会)
---------------	----------	-----------

【3】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概 要】

在宅介護を続ける介護者の介護負担軽減を主目的とした事業であり、利用者の要介護状態の低下防止と地域の利用ニーズに応えるために、利用者及び介護者が安心して利用できるサービスの提供に努めました。

令和7年10月23日には岐阜市実地指導がありましたが、特に指摘事項はありませんでした。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R7
利用者数	524	372	298	299	359
平均要介護度	3.30	3.00	3.1	2.8	3.0
利用率%	70.5	69.1	64.7	61.6	65.0

1 重点目標に対する取り組み

(1)関係機関に対し継続的な空所情報の発信を行います。また、利用相談には真摯に対応し、より多くの相談をいただける事業所となり利用率 80%を達成します。

- ・新規利用者は 46 名ありました。併設特養の入所判定会議で順位が低い方、また退院期限が迫っている方に対し、長期利用(特養入所までのロングショートステイ)を提案し利用に繋げました。

- ・長期利用開始後に入院となり空床となるケースや、定期利用者の利用控え(施設内の感染症の蔓延)の影響もあり、利用率は 65.0%でした。

(2)利用者の健康状態について、家族・主治医・ケアマネジャー等と連携し、迅速な対応により体調の安定を図り、継続的な利用に繋げていきます。

- ・利用中の利用者の体調について、必要に応じて救急搬送やかかりつけ医への相談、情報の提供、受診送迎等の支援を行い、家族・ケアマネジャーへの連絡を行いました。

- ・退院時には病院と連携し状態把握に努め、安全に利用再開ができるよう支援しました。

(3)利用者及び家族の生活に対する意向を尊重し、在宅生活を継続できるような支援および在宅生活が不安な方の長期利用の受入れまたは緊急受入など、多様なニーズに合わせた生活支援を行います。

- ・病院から自宅に戻ることが困難である方や、諸事情で自宅へ戻ることが困難である方で特養入所を待機する方、また希望施設が空くまで等の様々な理由の長期利用(ロングショートステイ)の相談を受け、入所に繋げました。なお、長期利用から併設特養へ入所した方は16名でした。

- ・緊急利用の受け入れを 8 件行い、個々のニーズに合わせた支援を行いました。

2 介護サービスの実施状況

担当ケアマネジャーのケアプランに沿って利用者個々のニーズに合わせた介護サービスを提供しました。

3 機能訓練の実施状況

利用者の状況やADLに合わせて、生活動線での歩行訓練や生活動作での手足の可動を生活リハビリとして実施しました。併せて機能訓練指導員による個別のリハビリを行いました。

4 食事サービスの実施状況

併設の特別養護老人ホームと同じ献立にて、イベント食および選択メニュー等を提供しました。

5 健康管理について

利用者の状況に応じて、事業所で受診相談及び対応を行ったことで早期の医療連携に繋げ、より安心して利用できるよう努めました。

2月には、インフルエンザが発生し3名が罹患しました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るために、併設の特別養護老人ホームと協同し委員会活動を実施しました。

【4】 老人デイサービスセンター大洞岐協苑事業(定員30名)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100792

【概 要】

要介護状態等にある高齢者等に対し、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・個別の機能訓練・レクリエーションの提供を柱として、必要な日常生活上の生活相談及び介護サービスを行いました。

令和7年10月16日には岐阜市実地指導がありましたが、特に指摘事項はありませんでした。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
利用者数(介護)	524	495	501	502	499
利用者数(支援等)	194	199	161	131	162
1日平均利用者数	20.6	20.0	19.7	17.6	19.7

1 重点目標への取り組み

(1)新規利用者獲得のため短時間デイを導入し、登録者 75 名・利用率 65%を目指します。

・短時間デイを希望する利用者(入浴を目的とした午前の部に6名、午後の部(リハビリ・レク活動を目的とした午後の部に1名)を受け入れました。また、体験利用の利用者は21

名（介護13名、総合8名）あり、そのうち18名と契約することができました。その結果、登録者は65名、利用率は65.7%でした。

- ・毎月、月末に居宅介護支援事業所へ空き情報を発信し、新規利用者の紹介をお願いしました。

(2)リハビリテーション機器の活用および余暇活動の充実を図り、SNS等を通じ居宅介護支援事業所等へ当センターの魅力を発信します。

- ・リハビリ機器を活用し、利用者の希望を取り入れ、一人一人の身体状況にあった個別機能訓練計画を立案し、計画に基づいた個別リハビリの提供に努めました。
- ・令和7年10月にはInstagramを開設し、週1回のペースでデイサービスの活動等を発信しました。
- ・利用者の要望に応じ、デイサービス中庭にて朝顔とゴーヤの栽培を行いました。ゴーヤは収穫し、利用者と一緒におやつレクとして料理し提供しました。

(3)質の高いサービスを提供するため、職員個々の介護力・対応力・応用力向上に努めます。

- ・年間研修計画に基づき研修を実施し、基本から応用までの知識を職員が共有できるよう努めました。
- ・デイサービス会議にて、事例検討を踏まえた対応策を話し合い、その結果を実践し、ケアの質の向上に努めました。
- ・職員間の情報共有を高めるため、サービス開始前のミーティングでの報告・連絡・相談に注力し、すぐに対応するよう努めました。

2 通所介護事業（介護保険事業）の実施状況

- ・居宅介護支援事業所ならびに地域包括支援センターとの連携のもと、定員の充足を図るよう努めました。
- ・急ぎの案件(入浴目的)にも柔軟に対応するよう努めました。
- ・身体機能低下に伴い、介助内容の変更・回数の調整等を行い、ご利用者様が快適に過ごせるよう努めました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業（通所介護相当サービス事業）の実施状況

- ・介護予防サービス・支援計画に沿った個別援助計画を作成し、適切なサービスを通所介護事業と同等の内容で提供しました。
- ・心身の状態変化に速やかに気づき対応し、できる限り自身の力で日常生活ができるよう支援に努めました。

4 基準緩和型デイサービス事業（事業対象者及び要支援を対象）

通所介護相当サービス事業の指定基準を緩和した事業ですが、事業への相談はなく、実績はありませんでした。

5 会議等の開催状況

- (1)事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、デイサービス会議を毎月1回開催しました。

(2)フォローアップ研修ネット配信サービスの動画視聴(15分から 20 分)による研修職員の資質向上のため、年間計画に基づいて下記の研修を実施しました。受講後には確認テスト実施し研修報告書として提出しました。

実施日	研修テーマ	参加者数
4 月	入浴研修	11 名
5 月	リーダーの役割(主任級以上)	3 名
	介護現場の接遇とは	9 名
6 月	身体拘束研修	11 名
7 月	不適切ケアと虐待	4 名
	入浴研修	11 名
8 月	倫理、法令厳守の理解	4 名
	認知症ケア	11 名
9 月	緊急時・事故対応 リスク管理	11 名
10 月	入浴研修	11 名
	プライバシー保護、個人情報取り扱いの理解	4 名
11 月	高齢者虐待研修	11 名
12 月	虐待防止、介護現場の身近な事例から考える	4 名
	身体拘束研修	11 名
1 月	入浴研修	11 名
2 月	高齢者虐待研修	11 名
3 月	身体拘束研修	11 名

(3) 苑内研修

実施日	研修テーマ	参加者数
5/28	感染症及び食中毒の蔓延防止・感染シミュレーション	4名
6/26	BCP 研修・災害シミュレーション	4名
11/26	BCP 研修・災害シミュレーション	4名
3/25	看取り実践報告	2名

6 その他

・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、併設する特別養護老人ホームと合同による避難訓練を年2回実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
6/25	地震及び火災を想定した訓練	22 名	夜間想定
11/19	地震及び火災を想定した訓練	26 名	

【5】大洞岐協苑訪問介護事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170101139号

【概 要】

要介護状態等となった高齢者が、住み慣れたまちでいつまでも暮らし続けるため、サービス提供責任者が作成する計画書に基づき、ヘルパーが自宅等へ訪問し、身体介護や生活援助等生活全般にわたる援助を実施しました。

令和7年10月16日には岐阜市実地指導がありましたが、特に指摘事項はありませんでした。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
利用者数(介護)	471	432	416	382	327
利用者数(支援等)	524	517	469	428	456
1日平均利用者数	19.5	19.6	17.9	17.4	17.4

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携を強化し、新規相談や訪問日程の変更などに柔軟に対応し、利用者の増加に努めます。
 - ・居宅介護支援事業所と地域包括支援センターとの連携のもと、新規相談や利用者の状況にあわせて増回や曜日変更など柔軟な対応に努めました。新規契約は年間 18 件ありました。
- (2) ヘルパー技術向上のため定期的に研修を実施、情報の共有、報告・連絡・相談を強化し、より良いサービスに努めます。
 - ・毎月開催するヘルパー会議にて困難事例相談や報告、情報の共有、研修会を行いました。
 - ・高齢者の身体的特徴と観察の視点、熱中症や感染症への対応など、年 12 回の研修を実施し対応力の向上に取り組みしました。
- (3) 基準緩和型訪問介護サービスの利用者の開拓、活動時間の増加に努め利用者 88 名を目指します。
 - ・基準緩和型訪問サービスの希望の相談はありませんでした。
 - ・また、新たな登録ヘルパーの応募はありませんでした。現任登録ヘルパーの高齢化もあり、活動時間の拡大は行えませんでした。その結果、利用者は月当たり64.3人と減少しました。

2 訪問介護事業（介護保険事業）の実施状況

居宅介護支援事業所の介護サービス計画に基づき、自立支援の視点を大切に援助しました。利用者の状況変化に合わせて、曜日の変更等柔軟な対応を行いました。年間を通じて新規契約は6件ありました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業（訪問介護相当サービス事業）の実施状況

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の介護予防サービス支援計画書に基づき、自立支援に努めサービスを提供しました。年間を通じて新規契約は 12 件ありました。

4 基準緩和型訪問介護サービス事業の実施状況

岐阜市基準緩和型訪問介護サービス従事者育成研修の案内書を、各事業所に配置しましたが、サービスの実施には至りませんでした。

5 有償サービスの状況

介護保険サービスでは対応ができない病院付添いなどの要望について、年間 24 件実施しました。

6 会議等の開催状況

(1) ヘルパー会議 年12回

運転免許証の確認、新規利用者情報の共有、変更事項、感染症予防について、困難事例検討、相談等、その他連絡事項などを周知し、間違いや事故防止に努めました。

(2) 研修

訪問介護員及び登録ヘルパーの資質の向上のため、年間計画に基づいて研修を計画し実施しました。

実施日	研修テーマ	参加者数
4/15	訪問介護の接遇マナー「言葉使いと服装だけじゃない」	6名
5/14	リーダーの役割	1名
5/21	介護現場の接遇とは	7名
6/17	事故防止	6名
7/15	ハラスメント研修	7名
7/15	不適切ケアと虐待	7名
8/19	倫理、法令厳守の理解	7名
9/16	緊急対応	6名
10/14	プライバシー保護、個人情報取り扱いの理解	6名
12/16	虐待防止、介護現場の身近な事例から考える	5名
2/17	感染症の予防と蔓延防止	7名
3/17	認知症介護における知識の重要性	6名

その他、法人内で実施する苑内研修及び勉強会に参加しました。

【6】在宅介護支援センター大洞岐協苑事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100123号

【概要】

要介護等の認定を受けた高齢者等が住み慣れた地域で生活するために、利用者の希望や家族の意向を踏まえた居宅サービス計画を作成し、適切な介護サービスの提供が図れるよう

努めました。

職員の勤務時間の変更により特定事業所加算体制の変更(減額)がありましたが、新規利用者(特に予防プラン)を積極的に受け入れ、利用率前年比 118%を達成しました。

令和7年10月16日には岐阜市実地指導がありましたが、特に指摘事項はありませんでした。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
プラン数(介護)	1,084	1,141	1,053	931	1,185
プラン数(予防)	212	547	474	522	732
月あたり件数	108.0	140.4	127.3	133.8	159.1

1 重点目標に対する取り組み

(1) 地域共生社会に向けて、多種多様なニーズに対応できるよう地域包括支援センターをはじめとする多職種との連携・協働を行います。岐阜市でも高齢化率の高い東部圏域の居宅介護支援事業所として、利用率前年比 105%をめざします。

- ・地域包括支援センターや他の居宅介護支援事業所と連携し、地域の会議等にも多数参加しました。

- ・R7.6月より、常勤職員が2名体制となったことでプラン数が制限された期間がありましたが、同時期にパート職員が1名増員しました。また、R8.3月には常勤職員が3名に復帰しました。1年を通じて新規利用者を積極的に受け入れたことにより、ケアプラン数は前年を大きく上回りました。

(2) 常に利用者の自立支援を考え、公正中立の立場に立った質の高いケアマネジメントを提供できるように自己研鑽し、各々が支援者としてのスキルアップに努めます。

- ・岐阜県介護支援専門員連絡協議会等の主催する研修会に積極的に参加しました。また、研修での学びを居宅会議において、事業所内にフィードバックしケアマネジャーのスキルアップに努めました。

(3) 事業所内での情報共有を行い、利用者のニーズに迅速に対応できるようチーム力を高めていきます。

- ・利用者の情報や留意事項の共有を目的とした居宅会議を毎週開催し、担当者が不在の場合でも事業所全体で対応できる体制を構築しました。

2 居宅介護支援事業(介護保険事業)の実施状況

- ・利用者及びその家族の希望を踏まえた居宅サービス計画の作成に努めました。

- ・ケアプラン件数は、月当たり 98.8 件でした。また、新規契約は年間 43 件ありました。

3 介護予防支援事業(地域包括支援センターからの受託事業)の状況

地域包括支援センターから新規の委託依頼が 24 件ありました。

4 介護認定調査(岐阜市及びその他の市町村からの受託事業)の実施状況

令和7年度は、職員体制の変更および利用者数の増加に伴い、認定調査への対応が困難な状況であったため、実績はありませんでした。

5 介護支援専門員実務研修実習生の受け入れについて

令和7年度は、介護支援専門員実務研修見学受講者1名を受け入れました。

6 地域とのかかわりについて

地域で行われる「いきいきサロン」等に定期的に参加し相談を受け付けました。また地域からの要請に応じ、ハンドベルの演奏、体操等を行いました。

実施日	訪問先	活動内容
4/15	ほっとカフェ JA 芥見	栄養の話 / コグニサイズ(PT 担当)
12/11	桐ヶ丘サロン	ハンドベルの演奏 / 寸劇
2/26	紅葉ヶ丘サロン	ハンドベルの演奏 / 寸劇
3/2	グループホーム大洞岐協苑	ハンドベルの演奏

7 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

- (1) 居宅会議 週1回 利用者の情報や留意事項の共有及び困難ケースについて
- (2) 内部研修 2回

実施日	研修テーマ	参加者
4/14	介護現場における生産性向上について	4名
5/8	認知症の取組み「ほっとカフェ実施/事務局会議」について	4名
7/31	不適切ケアと虐待	5名
8/28	「岐阜県総合医療センターと岐阜市東部地区介護関係機関との連携会議」の報告	5名
8/28	倫理法令順守の理解	5名
10/28	プライバシー保護個人情報の取り扱いの理解	5名
12/22	虐待防止のために自分の心を振り返る	5名
1/21	「意思決定支援研修会」の報告	5名

その他、法人内で実施する苑内研修及びスキルアップ研修や勉強会に参加しました。

【7】グループホーム大洞岐協苑事業(定員9人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170102483号

【概要】

認知症の状態にある要介護者に対し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者がその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう援助しました。

利用率は、コロナの影響もなく前年度を大きく上回りました。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
新規入所者数	5	4	1	2	2
退所者数	4	4	1	2	2
平均要介護度	2.44	2.50	2.22	2.77	2.9
利用率(%)	92.3	96.6	96.9	89.9	99.0

1 重点目標に対する取組み

(1)利用者の主体性を活かし個別ケアの充実を図ります。

- ・利用者の要望をお聞きし、また日々の様子から、状態に合わせたケアや個別計画を立て生活支援に努めました。

(2)共同生活が維持できるよう、支援していきます。

- ・より家庭に近い感覚で居心地よく共同生活が出来るよう、利用者同士の交流を多く取り入れながら、役割と居場所作りを行いました。

(3)感染予防対策に努め、家族 主治医との連携を密にして利用者の健康維持を図ります。

- ・基本的な感染防止対策の徹底を継続しましたが、初めてコロナ感染がありました。
- ・受診時には病院・入所者家族に体調変化などを書面で報告し、主治医から直接今後の対応についての返信を頂き、病状の変化への対応や細やかなケアに繋げました。

2 介護計画の作成とサービスの提供について

個々の入所者の達成感や、残存機能の維持をはかれる介護計画の作成に努めました。また、日常生活の充実の為、レクリエーションを日替わりで行い、軽作業などの日課を通して入所者それぞれの個性・得意な事を活かせる機会をつくりました。

3 家族とのかかわりについて

- ・2か月に1回、日々の様子を写真にて報告しました。
- ・体調の変化などLINEや電話で細目に連絡し、信頼関係の構築に努めました。

4 地域との交流について

- ・地域に開かれた事業運営のため、年6回2か月ごとに運営推進会議を開催しました。
- ・苑の周囲を散歩される方とあいさつや会話で交流しました。山田川の魚やすっぽんを一緒に見ました。

5 外部評価の実施状況

令和8年1月に認定評価機関である「NPO 法人 岐阜後見センター」による外部評価を受けました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

会議名	開催回数	備考
ケアハウス・グループホーム	12回	毎月1回開催

合同会議		
運営推進会議	6回	2 か月に 1 回開催

7 その他

・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年3回の避難訓練を計画・実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
6/25	地震による火災及び水害を想定	11名	
11/19	地震による火災及び水害を想定	11名	

【8】 ケアハウス大洞岐協苑事業(定員20人)

【概 要】

身体機能の低下等が認められ、又は高齢のため独立して生活するには不安が認められる高齢者等に対し、栄養バランスのとれた食事の提供、生活相談の充実、大浴場等施設環境の整備など安心して生活を送ることが出来る住環境を整えました。

感染症に関しては予防対策の継続をお願いしつつ、コロナ以前の生活に近い状況で過ごしていただきました。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
新規入所者数	4	4	6	4	7
退所者数	4	5	7	4	4
入居率(%)	98.3	97.9	89.9	94.0	95.4

1 重点目標に対する取り組み

(1)自立を支え、安心した生活を継続出来るよう関係機関との連携を深めます。

- ・毎月開催する入居者懇談会にて、栄養士やケアマネジャー等から、健康に暮らすためのヒントや介護保険の利用について専門的な話を聞く機会を設けました。
- ・入居者の担当ケアマネジャーと連絡を密にとり、情報の共有を行いました。

(2)利用者同士の交流の場を作り楽しいシニアライフを提供します。

- ・入居者懇談会にて意見交換の場を設けました。
- ・各階の談話コーナー、2階の談話室の環境整備を行い、季節感のある過ごしやすき空間を提供しました。

2 サービスの提供について

- ・入居者、家族からの相談事に関しては親身に対応し、困難な案件は他部所や他事業所の協力を得て、解決に努めました。

3 生活の援助について

- ・緊急時及び一時的に必要な場合の適切な支援を行いました。

4 会議等の実施状況

入居者同士の交流の場及び施設との意見交換の場として懇談会を開催しました。

会議名	開催回数	備考
入居者懇談会	12回	毎月1回開催

5 その他

・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年2回の避難訓練を計画・実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
6/25	地震による火災及び水害を想定	18名	
11/19	地震による火災及び水害を想定	13名	

【9】 地域密着型特別養護老人ホーム第2大洞岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190104253号

【概 要】

入居者一人ひとりの意向を尊重し、安心して穏やかに生活していただけるよう、個別ケアの提供に努めました。また、感染症対策を継続し、安全・安心な生活環境の維持に取り組みました。令和7年度は、12月から1月にかけて肺炎による体調不良者が増加し、入退院や入退所が相次ぎました。入院日数は延べ641日となり、空床期間が生じたことで、年間平均利用率は79.9%と目標の95%には届きませんでした。一方で、新規入居者は16名となり、前年度を上回る受け入れを行うことができました。

また、介護職員の負担軽減とケアの質向上を目的として、「眠りSCAN」及びインカム、見守りカメラを導入しました。見守り体制や職員間の情報共有が強化され、迅速な対応や業務効率化につなげることができました。今後も、地域や関係機関との連携を図りながら、安定した施設運営に努めてまいります。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
新規入居者数	35	8	3	12	16
退所者数	8	7	7	16	11
平均要介護度	3.67	3.64	3.75	3.57	3.88
利用率(%)	76.3	93.1	89.1	79.1	79.9

1 重点目標に対する取組み

(1)「その人らしい暮らしの継続」を大切に、ユニットケアならではの個別ケアの提供と余暇活動の充実(外に活動を広げる)に努めます。

入居者一人ひとりの生活意向を尊重し、日々の関わりやケア内容の見直しを行いながら個別支援に努めました。また、季節行事や外出支援、地域交流などを通して、

施設内外で楽しみや役割を感じられる機会づくりを行いました。

- (2) 人権尊重を大切にした生活の場となるよう多様な介護ニーズに対し、心に余裕をもったやさしい言葉かけと丁寧な対応に努めます。

毎月のケースカンファレンスや日々の情報共有を通じて、入居者の状態変化やニーズに応じた支援に努めました。また、「眠り SCAN」やインカムを導入し、見守り体制の強化と職員間の円滑な連携を図ることで、迅速かつ丁寧な対応につなげました。

- (3) 健康管理の徹底及びスムーズな入所案内により、年間利用率 90%を達成します。

日々の健康観察や感染症対策を継続し、入居者の体調管理に努めました。しかし、12 月から 1 月にかけて肺炎による入退院・入退所が相次いだ影響もあり、空床期間が生じ、年間利用率は 79.9%となり、目標達成には至りませんでした。

2 施設サービス計画について

入居者自身が「どのように暮らしたいか」の意向をもとに、多職種での話し合いにより個別のケアプランを作成・更新しました。カンファレンスは年間 12 回開催し、延べ 79 名分のプラン作成・見直しを行いました。

3 介護サービスの実施状況

個別のケアプランに基づき、入居者の能力に応じた支援を提供し、感染対策を講じながら、季節にちなんだ行事や余暇活動も積極的に実施しました。

4 機能訓練の実施状況

多職種の連携により、健康状態や運動能力を把握した上で個別機能訓練計画を作成し、継続的に訓練を実施しました。また、本体施設の理学療法士(PT)とも連携を図り、専門的な視点を取り入れながら、入居者一人ひとりの状態に応じた機能訓練に努めました。

5 食事サービスの実施状況

管理栄養士を中心に栄養ケア計画を作成し、入居者の状態に応じたバランスの取れた食事提供に努めました。また、イベント食や手作りおやつを実施し、食事を楽しんでもいただける機会づくりにも取り組みました。

さらに、内科医及び歯科医と連携し、摂食・嚥下状態の把握や経口維持への支援を行い、経口維持加算の算定を実施しました。

6 健康管理の実施状況

入居者の既往歴や現疾患の把握に努め、主治医との連携のもと、適切な健康管理及び医療的対応を行いました。また、11月には新型コロナウイルス及びインフルエンザワクチン接種を実施し、感染症予防に努めました。

さらに、協力医療機関との連携を強化するため、毎月「協力医療連携会議」を開催し、入居者の健康状態や緊急時対応等について情報共有を行いました。

7 看取り介護体制の確立について

看取り介護体制の整備に向け検討を進めましたが、今年度は「看取り介護指針」の整備及び体制構築には至りませんでした。今後は、多職種や主治医との連携を図りながら、利用者及びご家族の意向を尊重した看取り介護体制の整備に努めてまいります。

8 会議等の実施状況

(1)会議

- ・事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

会議・委員会	回数	備考
ユニットリーダー会議	12回	毎月
安全対策部門会議	2回	10月・3月
給食委員会	12回	毎月
事故防止委員会	6回	偶数月
感染症予防委員会	6回	
身体拘束防止委員会	5回	5・7・9・12・3月
虐待防止委員会	5回	
防災委員会	1回	2月

(2) 研修の開催

- ・介護職員等の資質の向上を図るため、必要な研修に参加しました。
- ・外部研修に延べ6名を派遣しました。

岐阜県経営協 生産性向上研修会 1名
次世代のリーダー養成講座 1名
岐阜県老施協 管理監督者研修会 1名
看護師部会 1名
介護士部会 1名
栄養士部会 1名

9 運営推進会議の開催状況

地域に開かれた施設としてサービスの質を確保することを目的とした運営推進会議を6回（2カ月に1回）開催しました。

10 介護相談員の受け入れ

利用者と施設の橋渡しを目的とし実施する岐阜市介護相談員派遣事業の受け入れを行いました。2名の介護相談員が令和7年6月まで毎月2回来苑しました。

11 岐阜市高齢者等緊急一時保護について

岐阜市が実施する事業を受託し、受け入れ体制を確保しましたが、相談実績及び受け入れ実績はありませんでした。

12 地域交流カフェの開催状況

感染対策のため地域交流カフェは開催できませんでしたが、代わりに地域の方やご家族との交流イベントを実施しました。

13 その他

(1) 非常災害対策について

入所者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また、BCP(事業継続計画)の整備に努めました。

実施日	訓練想定	参加者(うち職員)
6/3	夜間、地震・火災	37名(12名)
11/21	昼間、土砂・火災	36名(12名)

(2) ボランティア等の受入れ

団体(敬称略)・個人名	活動内容	備 考
ハーラウ ワレア ホアヘレ	アロハ!フラライブ	フラダンスイベント
中部学院大学短期大学部 ハンドベルクワイア	クリスマスコンサート	ハンドベルの演奏
奥村理事様 他1名	納涼祭	出店担当
岐阜県動物愛護センター	ドッグセラピー	
岐阜勇爽太鼓	和太鼓演奏会	
レクリエーション協会 加藤様	健康体操	
レクリエーション協会 大野様	ミナレク運動	
フルートオーケストラさくら	フルート演奏会	
協美会 臼井様	バイオリン演奏	
小森様	サイエンスショー	
移動スーパー(はじ丸)	移動スーパー	毎月1回

(3) 地域交流室ポローニアの利用状況

4 団体より、延べ 13 回の利用がありました。

【10】 岐阜市地域包括支援センター東部事業

【概 要】

地域の高齢者が、住み慣れた街で安心して生活が送れるよう、地域・医療・福祉をつなぐ相談窓口として多機関と連携し、さまざまな相談に応じてまいりました。

多問題を抱えた相談が多くなり、多職種とのネットワークを図りながら地域包括ケアシステムの構築に向けて、様々な機関と連携し地域課題への取り組みを行いました。

1 重点目標に対する取り組み

(1) 事例の振り返りや他職種との連携を深め、困難ケースへの対応力向上に努めます。

・困難ケースの振り返り検討会として時間を設けることは出来なかったが、毎月の内部会議で、経過報告や多職種との連携について検討してきました。

(2) 地域や関係機関との途切れない関係作りに努め、認知症啓発活動及び新たなカフェの開設、また各地域における見守り体制の構築について取り組みます。

・ほっとメイト会、フレイル予防専門職チームとして、地域の関係機関と定期的に会議を開催してきました。認知症カフェは新たに2か所、認知症の集いの場を1か所開催しました。各地域の見守り体制の構築としては、引き続き地域と連携しながら取り組んでいます。

2 包括的支援事業等の実施状況

(1) 地域包括支援センターの活動を、より多くの方に知ってもらうための広報誌「のんびり通信」を年5回発行し、地域包括支援センター業務の紹介、認知症への取り組み、虐待・消費者被害の注意喚起、成年後見制度やおいしく食べよう教室などについての情報を掲載しました。

(2) 芥見東地域の3世代交流センター「みどりっこハウス」において、第1・3週の水曜日に福祉総合相談の窓口を開設し、介護保険サービスへの利用につなげました。

(3) 各地域のふれあいいきいきサロン16会場からの要請を受け、地域包括支援センターの周知活動をするのと同時に、認知症予防や消費者被害などの講話をして介護予防に努めました。

(4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務において、地域の介護支援専門員への介護予防・自立支援の認識を深め、互いに協力し支え合う体制づくりのため、居宅連絡会を開催しました。また、地域ケア個別会議を実施することで地域課題を整理・分析し、解決に向けた取り組みを行いました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業対象者の把握事業について

生活機能の低下がみられる高齢者に対して、岐阜市が主催する教室への参加を促し、ケアプランを作成、介護予防に努めました。また、要支援認定者や事業対象者においては、介護予防ケアマネジメント事業として自立に向けたケアプランの作成と委託ケアプランの確認を行いました。

おいしく食べよう教室	まめかな訪問事業	運動機能向上事業	認知症予防事業
8 件	0 件	0 件	0 件

4 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築について

フレイル予防の専門職会議を年6回開催し、専門職間の連携を図りながら、フレイル予防教室の実施・検討などを行い、次年度の取り組みの課題を見出しました。また、フレイル予防のチラシを年3回発行し、地域住民に周知しました。さらにフレイル予防教室を7月と11月と2月に開催し、多くの参加を得ることができました。

ほっとメイト会の活動としてほっとカフェを8回、介護者家族の集いを6回実施しました。

認知症サポーター養成講座は小・中・高校向けと地域や企業向けに計8回実施し、さらに受講者に対しステップアップ研修を実施して支援者としての活動を支援しました。

5 地域ケア会議の実施状況

関係機関や介護支援専門員、民生委員・児童委員、地域住民からの支援困難ケースを多職種で検討し、認知症に対する地域理解と見守り体制や介護者への家族支援などを目的とした地域ケア個別会議を行いました。

また、関係機関とのネットワーク構築に向けた地域ケア会議を3回行いました。

6 指定介護予防支援事業(介護保険指定 岐阜市指定第2100100185号)の実施状況

東部地域に事業所のある居宅支援事業所をはじめ、その他の地域にある居宅支援事業所と業務委託契約を締結し、予防ケアプラン業務を委託しています。委託事業所とは連携を密にし、利用者の自立につながる介護予防ケアプランの作成や居宅介護支援専門員の支援に努めました。

利用状況実績(過去5年)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
総プラン数	4,734	4,905	5,139	5,771	6,369
プラン数(包括)	2,594	2,133	1,697	1,614	1,871
プラン数(委託)	2,140	2,772	3,442	4,157	4,498
委託事業所数(延べ)	302	323	343	362	371

7 岐阜市日常生活圏域協議体設置事業の実施状況

地域団体の代表者、介護、福祉関係者とともに、一人暮らし高齢者を見守る仕組みとして「支え合い活動」についての検討会に年4回参加しました。

【11】岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター事業

【概 要】

岐阜市内の中ブロックに属する地域包括支援センター中央北・中央西・白梅華・島城西・清流・長森・長森南・東部の8か所(以下、「センター」という。)において、各センターの機能を強化すべく後方支援をはじめ、総合調整や助言を行いました。また、必要な人が必要な支援につながるができるよう、地域ケア会議を充実させ、地域の関係団体等とのネットワーク構築につなげるなど、センターの活動を支援しました。

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 中ブロック管理者会を年3回以上行い、各包括の取組状況の確認や課題を共有し、業務の標準化、業務推進に向けた連携を促進していきます。
・地域ケア会議の進行方法や個別課題の背景にある地域課題を包括と一緒に考えました。
また包括が作成する地域ケア会議記録や議事録の確認をし、包括が地域課題整理できるよう助言しました。
- (2) チームオレンジのより一層の整備促進に向け、各包括の活動状況を把握し、地域支援体制づくりの充実が図れるように一緒に検討していきます。
- (3) 認知症についての地域課題を整理し、その背景について認知症地域支援推進員と意見交換を行い、認知症施策に向けた取り組みを一緒に検討していきます。

- ・チームオレンジの情報交換やすでに活動しているチームオレンジのフォローについて、検討できるよう、認知症地域支援推進員連絡会を企画し、開催しました。
- ・包括主催の認知症サポーターステップアップ研修について、チームオレンジの理解と地域での活動につながるよう、包括と一緒に内容を考えました。
- ・本人および家族の思いを聞く場を設け、支援者中心ではなく、当事者の声を踏まえた課題共有を行いました。

2 困難事例に対する支援について

- ・相談対応、情報提供、ケース会議や地域ケア個別会議への参加及びアドバイスをしました。
- ・多機関とのネットワーク構築を目的とした福祉相談窓口連携会議に参加しました(年 12 回)。
- ・対応力向上を目的とした地域包括支援センター職員研修を開催しました(年 3 回)。

3 地域ケア会議開催に向けた支援について

- ・地域ケア会議の打ち合わせへ参加し、目的の確認や参加者の選定、当日までの準備について支援しました。
- ・地域ケア会議から抽出された地域課題の把握及び課題を整理しました。

4 認知症サポーターステップアップ研修に対する支援について

- ・センターと協働し、認知症サポーターステップアップ研修を開催しました(年1回)。
- ・受講者がチームオレンジや認知症カフェへの活動につながるよう支援をしました。

5 認知症施策推進のための支援について

- ・情報交換、共有の場として中ブロック認知症地域支援推進員連絡会を開催しました(年 5 回)。
- ・認知症初期集中支援チームとの意見交換やチームオレンジの活動を共有するための会議を企画、開催しました(年3回)。
- ・認知症についての理解や相談先の周知を図るため、認知症月間啓発イベントを開催。(中ブロックの取り組み)。

6 広報及び周知啓発に対する支援について

- ・広報紙を確認し、加筆・修正等助言しました。
- ・ブロック内で広報紙の情報共有や周知活動の共有をしました。

7 各専門職への人材育成に関する支援について

専門職会議の開催を支援しました。

会議名	参加回数
主任ケアマネ会	4 回
社会福祉士会	6 回
看護師・保健師会	4 回

8 地域包括ケアシステムの構築、推進に関する支援について

連携向上のための会議を開催しました。

会議名	開催回数
岐阜市高齢福祉課との打ち合わせ会	13 回
中・北・南ブロック機能強化型地域包括支援センター連絡会	13 回
中ブロック連絡会(管理者会)	3 回

【12】 介護付有料老人ホーム日野岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190100186号

【概 要】

空床状況を各事業所へ発信、また SNS を活用し、看取り介護を行う施設として情報発信を行いました。年間 10 名の新規入所者を迎え、12月には満床を達成しました。

看取り介護においては、主治医や訪問看護と連携し、ご家族様の意向を尊重した支援を行いました。その結果、入院者数や入院日数を最小限に抑えることが出来ました。

また地域とのつながりを深めるため、地域の催しには積極的に参加し、移動スーパーの利用や地域スーパーへの買い物など外出機会を増やしました。公民館から福祉用具購入の相談を受けるなど、地域の相談窓口としての役割も徐々に担ってきました

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
新規入所者数	7	17	8	9	10
退所者数	12	12	10	13	5
平均要介護度	3.30	3.10	2.90	2.90	2.80
利用率%	90.6	86.9	92.1	85.2	91.7

1 重点目標に対する取組み

(1)満床の状態を保つことができるよう、入居希望者や居宅事業所と連携を深めます。

- ・居宅事業所の他、地域密着の生活情報誌の「GIFUTO」に掲載し看取り介護を行う施設をアピールし、入所につながるように努めました。

(2)感染症の再発防止に努め、継続して看取り介護を丁寧に行います。

- ・「持ち込まない」を意識し、職員の検温、手洗いの徹底を継続してきましたが、8月15名の方が新型コロナウイルス感染症を発症しクラスターとなりました。
- ・看取りについては、看取りを希望されるご家族様へむけたパンフレットを作成し、ご家族様が施設の看取りに対して不安が無いように努めました

(3)職員の職場定着率の向上のため、職員とのコミュニケーションを密にします。

- ・新規職員には育成状況を把握するため入職 1 か月後に面談を行いました。不安や質問しやすい環境を作るように努めました。

2 介護サービスの実施状況

- ・施設サービス計画に基づき適切なサービスの提供を行いました。
- また外出行事や外部ボランティアによる催し物も積極的に行いました

3 機能訓練の実施状況

- ・入居者の健康状態及び運動能力を把握し、機能及び健康の維持増進のため、看護師が中心となり個別機能訓練計画を作成し、機能訓練を実施しました。

4 食事サービスの実施状況

- ・季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食を6回提供しました。（5月・7月・9月・12月・1月・2月）
- ・手作りおやつを5回行いました。（4月、9月、10月、12月、3月）

5 看取り介護の実施状況

- ・今年度5名のご利用者様がお亡くなりになり、そのうち4名の方が施設内で看取り介護を受けられました。ご家族様が安心して看取り介護に臨めるよう、お身体の変化など説明したパンフレットも作成しました。看取り後のご家族様アンケートからは感謝の言葉を頂きました。今後も、ご利用者、ご家族様に寄り添ったケアを行っていきます

6 健康管理の実施状況

- ・日頃より体調の変化に留意し、主治医との連携を密に必要な医療処置、病気の予防など健康管理に努めました。
- ・入居者の感染予防対策として、新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの予防接種を実施しました。

7 空床の短期利用について

- ・有料老人ホームの短期利用への相談はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議及び委員会

- ・事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議と委員会を開催しました。

会議名	開催回数	備考
職員会議	10回	7月、8月中止
給食委員会	12回	
リーダー会議	12回	
医務会議	10月	8月、9月中止
行事委員会	10回	5月、9月書面
介護力向上委員会	10回	5月、7月書面
事故、感染、拘束委員会	8回	4月、9月書面 8月、11月中止
運営推進会議	6回	奇数月
入居者懇談会	2回	5月・12月

(2) 研修

- ・職員の資質の向上を図るため、法人内の事業所と共同して苑内研修及びスキルアップ研修へ参加しました。Eーライニング研修は職員が全員参加しテスト提出ができました

9 その他

(1) 非常災害対策

- ・入居者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また、防火管理者が異動により不在となったため、新たに防火管理者講習を受講しました。

実施日	内容	参加者数	備考
7月30日	地震及び火災を想定した訓練	22 名	日中想定
12月10日	地震及び火災を想定した訓練	10 名	夜間想定

(2) ボランティア活動来苑者(順不同・敬称略)

団体・個人名	活動内容	活動日など
臼井啓子様	絵遊び、モノ作り	毎月 1 回開催
森 恵子様	音楽療法	毎月 1 回開催
あいぱち 様	パチンコ体験	4/21
FC 岐阜キャラバン	体操やゲームや運動	8/19
小森龍二様	サイエンスショー	11/25
ロイム 様	マジックショー	8/6
遊歌狸	マンドリン、うた、紙芝居	9/15、12/24
エンデバーズ様	歌、演奏	2/14

(3) 清掃委託業者

- ・清掃委託業者が岐阜市社会福祉事業団に変更となり、清掃の成果を上げるため意見交換会を開き成果が徐々に上がっています。

	開催回数	備考
ワークサポート意見交換会	5 回	4 月、6 月、9 月、10 月、3 月

【13】 日野岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170105074号

【概 要】

ショートステイ利用率は、目標利用率 85%に対し 72.2%、達成できたのは3月のみという結果となりました。

利用率向上のため空床情報の提供方法の見直しを行い、送付頻度を増やしタイムリーに情報共有ができるように工夫し関係事業所との連携を強化しました。またロングショートも受け入れしやすいように居室調整も行いました。これらの取り組みにより年度末には目標が達成できました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
利用者数	463	510	519	449	487
平均要介護度	3.10	3.10	3.00	3.4	2.80
利用率%	81.8	83.1	75.7	77.2	72.2

1 重点目標に対する取組み

(1)ケアを熟知した職員を多く育成し、人員の安定化を図ります。

ケア内容の変更時は、申し送り表を用いて即時に情報共有を行いました。新規利用の面接時に医療的対応が必要と判断される場合はナースも同席しています。申し送りを通じて医療的なケアはナースから助言をもらいました。

(2)年間平均利用率 88 パーセントを目指します。

ロングショートを利用していた方の施設入所により利用率が低下しました。利用率向上に向けて新規の受け入れの調整や、関係機関との連携を強化した結果、年度最終月の3月に利用率が安定し目標が達成できました

2 介護サービスの実施状況

- ・個別の居宅サービス計画に基づき適切なサービスの提供に努めました。
- ・状況に応じて緊急時の受入れにも対応しました。

3 機能訓練の実施状況

- ・生活リハビリとして短距離歩行の付き添いや苑外を散歩する機会を増やしました。

4 食事サービスの実施状況

- ・併設の有料と同じ献立やイベント食を楽しみました。手作りおやつの日も一緒に行いました。

5 健康管理について

- ・感染予防対策に取り組み、入所前の検温や体調確認の徹底に努め、必要に応じケアマネジャー、主治医又は嘱託医との連携を図るなど健康管理に注力しました。

6 生活相談について

- ・生活相談員をはじめ職員が日常生活に関する事等の相談に対応し、生活課題の解決に努めました。

7 送迎サービスについて

- ・岐阜市以外の地域からの利用や希望に沿った送迎時間を可能な限り対応しました。

8 余暇支援サービスについて

- ・年間を通して併設の有料の行事やサークルに参加しました。短期入所フロア独自の活動も多くありました。

9 会議等の実施状況

- ・事業運営の適正及び職員間の連携を図る為に、併設の有料老人ホームと協働し委員会活動を実施しました。

